

9月

みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう

■ 14時30分から15時30分
■ 展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、
話題や内容は実に多彩。
どんどん質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

1日
(11月1日)

話者：竹沢尚一郎（国立民族学博物館 教授）
話題：アトランティック・ヒストリーと西アフリカ
会場：本館展示場（アフリカ展示場）

22日
(11月22日)

話者：木村裕樹（龍谷大学 非常勤講師）
話題：【特別展開連】
アチックミュージアムの民具コレクション
会場：特別展示館

29日
(11月29日)

話者：出口正之（国立民族学博物館 教授）
話題：みんなくの「磁力」を考える
——音楽の祭日を事例に
会場：本館展示場（ナビひろば）

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

台湾とは直接の関わりがなく、旅行をしたこともないので、どうもイメージがわからない。中国本土にも行ったことはないのであるが、上海、北京などはなんとなく想像できる。台湾人は親日派と聞くと、一度行くと、その魅力にはまってしまう人も多いらしい。それでも私の中では、なんだかつかみどころがよくわからず、もやあつとした場所なのである。

研究上の接点としては、中東研究の偉大な先学である前嶋信次先生が日本統治下の台湾に12年間おられたことがある、ということぐらいか。個人的なつながりといえば、私が子どもの頃、商社マンである叔父が台湾に転勤になり、従妹たちが中国語が話せるようになって帰ってきたことが不思議だったことである。台湾を一番身近に感じたのは、西表島に行ったとき。那覇よりも台湾の方が近いということを知って、驚いた。

台湾人が日本を知るほど、日本人が台湾を知らないのはなぜなのだろう。企画展を見ながら、よく考えてみよう。
(山中由里子)

●表紙 機を織るクヴァラン族の女性(19世紀末頃)
背景は、バナナ繊維性男性用長袖上着、
標本番号:H0274441、地域:台湾、民族:クヴァラン族

次号の予告

特集

武器をアートに

月刊みんなく 2013年9月号

第37巻第9号通巻第432号 2013年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八村桂穂

編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 久保正敏
庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 野林厚志

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一欒

制作・協力 一般財団法人千里文化財団

印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分。
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんなくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

